

石川県リハビリテーションセンターニュース

目次

地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション	1
地域リハビリテーション推進事業と 自動車運転シミュレーション装置更新のご案内	2
リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業	3
バリアフリー推進工房事業	3
難病相談・支援センター事業	4
高次脳機能障害相談・支援センター事業	5

地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション

平成26年6月には医療介護総合確保法が成立し、市町が実施する介護予防・日常生活支援総合事業に「地域リハビリテーション活動支援事業」が位置づけられました。この事業では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハビリテーション専門職（以下、リハ専門職）が、通所、訪問、地域ケア会議、住民運営の通いの場等へ関与して技術的助言を行うことにより、自立支援に資する取り組みを推進することが目的とされています。当センターでは、県理学療法士会、県作業療法士会、県言語聴覚士会と協働して、介護予防や地域ケア会議などにおいて活動できるリハ専門職の育成、及びリハ専門職がどのように地域包括ケアに貢献できるかを市町や地域包括支援センターの方々とともに理解を深めるための啓発普及に関する事業を進めています。

具体的には、①地域のリハ専門職が市町事業に関与するために専門的な知識や技術だけではなく、地域包括ケアの視点や介護予防事業、行政施策等への理解を含めた教育・研修を実施しました。135名のリハ専門職が参加し、修了者のうち94名を協力者として当センターのホームページに掲載しています。また、②地域包括ケア担当者がリハ専門職に対する理解を深めるためのパンフレット「地域包括ケアとリハビリテーション」を作成しました。さらに、③加賀市をモデル地区として、地域包括ケアに関わる職種とリハ専門職の顔の見える関係づくりを目的としたシンポジウムを開催し、リハ専門職が自分の地域でどのような地域包括ケアが推進できるのかを知る機会になりました。

次年度もリハ専門職職能団体と協働しながら、地域のリハ専門職が積極的に地域包括ケアシステムに関与できる連携体制の構築を目指していきたくと考えています。関係の皆様のご理解と、なお一層のご支援ご協力を賜りつつ、より多くのリハ専門職の方々の事業参加を期待しています。



人材育成研修（平成27年7月4・5日）



リハ専門職啓発・普及パンフレットの作成

地域リハビリテーション推進事業と自動車運転シミュレーション装置更新のご案内

◆地域リハビリテーション推進事業◆

当センターは、リハ専門職が様々な関係機関と連携し、地域での生活、就学、就労等に関する専門的なリハビリテーション技術支援（以下、リハ技術支援）を実施しています。平成18年の障害者自立支援法施行後、当センター内に難病相談・支援センターや高次脳機能障害相談・支援センターが設置され、各センターと協働して地域で生活する障害のある人の自立支援を推進しています。現行の支援体制となった平成19年度と、平成25～27年度（見込み）の支援内容は表1のとおりで、支援件数は約2倍近く増えています。

これらの背景には、①近年の地域包括ケアの中で医療機関における入院期間が短縮し、住み慣れた地域で生活する障害のある人や高齢者が増加することで、介護負担の軽減及び自立度の高い在宅生活を支援するリハ専門職との関わりへのニーズが増加していること、②平成24年度から障害のある人個々に支援計画が必須となったことなど、相談支援専門員が中心となり各地域での支援ネットワーク構築が図られてきたことがあげられ、その結果、重度な障害のある人や難病疾患の方への支援依頼が増加したものとされます。

当センターでは、今後も様々な関係機関と連携しながら障害のある人や高齢者が住み慣れた地域で自立度高く生活ができるよう、専門的な相談機関として支援依頼に対応していきたいと思っています。

相談支援の依頼元別件数の推移（件）

依頼元	H19年	H25年	H26年	H27年 見込み
医療機関	88	190	130	164
障害者総合支援法関連施設（障害者施設等）	66	93	139	124
教育機関（特別支援学校、特別支援学級等）	69	143	132	134
介護保険法関連施設	17	55	77	56
訪問リハビリテーション事業所	6	25	6	24
保健福祉センター	36	0	13	8
障害者の相談支援事業所	0	40	64	126
市町	46	29	73	80
身体障害者更生相談所	52	11	9	20
難病相談・支援センター	38	96	110	180
高次脳機能障害相談・支援センター	33	162	135	152
職業関連施設	5	3	0	10
その他	25	17	25	66
計	481	864	913	1,144



ほっとあしんの家を利用した住環境相談支援

◆自動車運転シミュレーション装置更新のご案内◆

当センターでは、専門的なリハ技術支援の一つとして、障害のある人の自動車運転に関する支援を行っています。具体的な相談内容は、①運転能力評価、②動作指導、③制度等の情報提供、④身体特性に応じた運転補助装置の検討、⑤自動車運転に必要な機関との連携などとなります。これらの相談に対応するため、開設時より自動車運転シミュレーション装置（以下、装置）を設置し、支援の評価道具として利用してきましたが、平成27年10月に最新の装置に更新しました。この装置では、運転に必要な視覚反応や運動能力の測定、及び様々な肢体の障害に応じた模擬的運転操作の体験が可能です。自動車運転は、障害のある方々の就労や社会参加の促進に大事な手段の一つですので、今後も多くの方々の安全性と可能性の検討にご利用いただければと思います。



新しくなった自動車運転シミュレーション装置

相談の対象者は、原則として身体に障害のある人や身体障害者手帳を有する人で、次のア)、イ)のいずれかの関係機関からの依頼により、当センターが適当と認めた方となります。

ア) 医療・福祉機関、介護保険関連機関、市町・保健福祉センター、地域包括支援センター、教育・就労機関からの紹介。

イ) 高次脳機能障害相談・支援センター、難病相談・支援センターからの紹介。

なお、実際の免許更新、取得等については、県の免許センターが実施するものであり、当センターへのご相談は直接免許の更新に結びつくものではないことをご理解の上、ご利用ください。

リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業

障害のある人や高齢者が住み慣れた地域で生き生きと自立的な日常生活や社会生活が出来るよう、県内の市町又は委託されている障害者相談支援事業所等が窓口となり、福祉用具の活用や生活環境の調整等によるリハ技術支援が推進される相談支援体制を目指し下記の事業を展開しています。

◆障害（児）者の自立に向けた支援機関連携モデル事業◆

平成25年度から障害のある人や高齢者の支援でコーディネーター役を担う地域の相談支援専門員、介護支援専門員が中心となり、障害のある人や高齢者のリハ技術支援を身近な地域で対応するために、実際の事例を通してケース検討会を行いながら支援者同士のネットワークを強化していくためのモデル事業を実施しています。今年度は加賀市、白山市、羽咋市・宝達志水町、珠洲市・輪島市・能登町・穴水町で実施していただき、各地域の特色にあわせ、医療・介護・福祉関係職種の合同事例検討会や勉強会の開催、補装具や日常生活用品に関するマニュアルの作成、先進地視察などの活動を行っています。また、当センターとも連携して「ほっとあんしんの家」や最新の福祉用具等を活用しながらリハ技術支援を実施しています。



加賀市自立支援協議会のセンター見学・交流会



座位保持装置スキルアップ研修

◆補装具等の適合・供給人材スキルアップ事業◆

地域でのリハ技術支援や相談支援体制の充実を図るには、適切な補装具等を適合・供給できる人材のスキルアップが不可欠なため、平成25年度から①自立支援型サービスの視点を重視したプランニング研修と、②補装具に関する適合・選定・改良・製作等の実践的技術研修を実施しています。

- ①プランニング実践研修：本年度は能登中部保健福祉センターを会場に、相談支援専門員や介護支援専門員を対象にした「自立を視点においたアセスメントとプランニング」研修を3回1コースで開催し、54名が受講され13名の方が修了しました。
- ②補装具適合・製作実践研修：当センターを会場に、リハ専門職や福祉用具専門相談員を対象に「座位保持装置」をテーマに実践研修を6回1コースで開催し、383名が受講され、現在28名の修了者が誕生しました。

バリアフリー推進工房事業

バリアフリー推進工房における、今年度のテクニカルエイド（福祉用具の適合や住環境の調整による自立支援）件数は1月末で617件となり、近年は重度障害のある人への専門的で複雑な技術支援が増えています。企業支援では、東京五輪・パラリンピックに向けたスポーツ施設のシャワールームや、軽量・コンパクトな姿勢変換機能付き電動車椅子の研究支援に着手しました。

また、今年度からスタートした「自助具製作ボランティア育成事業」では、機械、電子、木工、被服分野の熟年技術者を対象に2回のセミナーを通じて7名のボランティアを育成し、重度四肢麻痺者のコミュニケーション機器等を操作する装置等の製作に取り組みました。身体機能が低下して様々な生活場面で誰かの手助けが必要な方でも、ちょっとした道具の工夫によって自分自身でできるようになり、生活の幅が広がります。今後もボランティアとチームを組んで、タイムリーに自助具等の製作、試用評価、提供ができる仕組みづくりを目指していきます。



自助具製作の様子

難病相談・支援センター事業

難病相談・支援センターでは、難病患者やその家族が病気、日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、各種相談をはじめ、当事者との交流、研修会の開催、病気・就労に関する情報提供、福祉用具や住宅環境調整等の支援を行っています。

【平成26年度相談状況～平成27年度実施状況】

昨年度の相談件数は実201件(延べ711件)で、患者の年齢は40～60代が全体の4割を占めていました。疾患別では、神経・筋疾患が最も多く、次いで免疫系疾患、骨・関節系疾患の順となっており、中でも筋萎縮性側索硬化症や脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの神経難病では、病状の進行に伴う歩行や食事動作などの日常生活動作の困難さや話しにくさ、飲み込みにくさなど生活のしづらさに関する相談が多い状況でした。相談内容全体では、「医療・治療に関すること」、「病気・病状に関すること」、「福祉制度に関する相談」が多く、患者や家族は常に最新の医療、治療などの知識、利用できる福祉制度に関する情報を得たいというニーズがありました。

これらのことから、難病相談・支援センターでは、より“広域”かつ“専門的”な支援を目指し、専門医相談やリハ専門職などによるテクニカルエイド等の技術支援、希少難病の医療講演会等を継続し、地域の保健所をはじめとした多職種連携によるきめ細やかな支援を行っていききたいと思います。

また、患者同士の交流支援では、病気の理解を深めるとともに、患者個々の精神的支援にもつながることから、今年度より試行的に難病交流会を月1回開始したところ です。疾患を限定せず、難病であればどなたでも参加でき、毎回10名程度の参加があります。今後は交流会をより充実させ、希少難病や患者会が未だない疾患に対する支援についても丁寧に対応していききたいと思います。

さらに、40代50代の働き盛りの就労支援も課題となっています。就労相談会の開催やハローワークの難病就労サポーター等との連携による個別支援を丁寧に行い、就労支援の充実強化を図っていききたいと思います。

年齢

	割合(%)
30代以下	17.4
40代～60代	42.8
70代以上	14.9
不明	24.9
計	100.0

疾患別

	割合(%)
神経・筋疾患	42.8
免疫系疾患	11.9
骨・関節系疾患	8.5
消化器系疾患	6.0
呼吸器系疾患	4.0
内分泌系疾患	2.0
血液系疾患	1.5
代謝系疾患	1.0
その他	22.3
計	100.0

相談内容 (相談者201名に対する割合)

	割合(%)
医療・治療	28.9
病気・病状	24.9
精神的支援	12.9
介護・看護	9.9
福祉制度	21.9
就学	13.4
就労	1.9
リハビリ	4.4
レスパイト	0.9
患者会	16.9
医療費助成	16.4
テクニカルエイド	16.4
その他	35.3

診断や治療内容について、他の先生にも相談したい。受診できる医療機関を知りたい。

今後どのように病状が進んでいくか。遺伝の可能性について知りたい。

どんなサービスが受けられるか。介護保険制度、障害年金について知りたい。

患者会について知りたい。同病者と交流したい。

歩行や食事動作、福祉用具、住宅改修について相談したい。コミュニケーション機器を紹介してほしい。



難病交流会 (お菓子づくり)



難病交流会の様子

【平成27年度から小児慢性特定疾病児童等の相談事業を開始しました】

◆各種相談◆

療養生活上の不安や悩みなどの相談に応じています。子どもの成長過程・病状に応じて必要な支援は多岐にわたり、療養に関する支援、学校生活に関する支援、自立に向けた支援、家族を支える支援などが必要となります。

難病相談・支援センターでは、従来の難病患者支援におけるネットワークを活かし、かつ教育機関や子どもの難病患者家族会とも連携し、きめ細やかな支援を行っていききたいと思います。

◆講演会・研修会の開催◆

平成27年11月19日（木）に「医療依存度の高い在宅療養児と家族支援のための学習会」を、南加賀地区で在宅医療をしている障害児と親の会『スマイルの会』と南加賀保健福祉センターとの共催で実施しました。講師は訪問看護ステーション・リハケア芦城の看護師 高野明美氏で、ご家族が子どもの健康状態を観察、適切にケアし、安楽に療養できるようご指導いただきました。市町職員や相談支援専門員、訪問看護師の参加もあり、貴重な情報交換の場になりました。平成28年3月20日（日・祝）には、金沢医科大学小児科の犀川太主任教授を講師に「小児がん講演会」を開催し、患児・家族をとりまく一般住民や支援関係者に小児がんについての啓発を行いました。



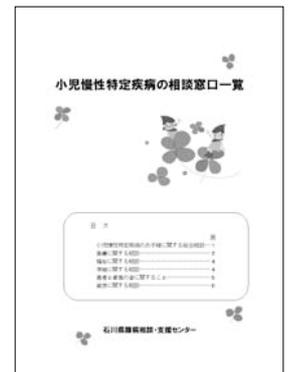
研修会の様子（平成27年11月19日）

◆家族交流会の開催◆

平成27年12月7日（月）に「先輩ママの体験談：病児の子育て」と題して交流会を開催しました。全国心臓病の子どもを守る会石川県支部支部長の竹垣和恵氏の講話をお聴きし、参加者からは学校生活の不安や受診の判断、病気の進行や合併症の不安などが語られました。講師から具体的な温かい助言やしんぞう手帳の情報を得て、今後の療養生活に活かそうとされる熱心なご家族の姿がみられました。

◆医療福祉情報の提供◆

ホームページ等で、小児慢性特定疾病の患者家族会の情報や「小児慢性特定疾病の相談窓口一覧」を作成して保健、医療、福祉等の情報提供を行いました。今後も小児慢性特定疾病のお子様に必要な情報の発信に努めます。



小児慢性特定疾病相談窓口一覧

高次脳機能障害相談・支援センター事業

【平成26年度相談状況】

高次脳機能障害相談・支援センターは県内の高次脳機能障害の支援拠点として、関係機関の方々と連携しながら相談を行っています。

相談内容は障害の理解や対応方法、就労、就学など

多岐にわたりますが、最近では医療機関や福祉施設に加え、学校や企業からの相談も増えています。

今後も高次脳機能障害の普及啓発と関係機関との連携を強化し、支援体制の充実を図っていきます。

相談方法（延）（件）	
電話	434
面接	170
fax、ハガキ、メール等	106
訪問	63
計	773 (実99)

相談内容（重複あり）（延）（件）	
就労	230
生活	121
精神的支援	109
障害の理解・対応	95
医療・治療	81
福祉制度	65
リハビリ	49
病気・病状	48
就学	19
生活支援教室	58
対人関係	23
患者会	7

相談者（重複あり）（延）（人）	
家族・友人	294
本人	217
福祉機関	109
医療機関	101
相談支援専門員	74
行政	39
介護支援専門員	27
職場	14
学校	8
患者団体	4

【平成27年度実施状況】

◆普及啓発研修◆

平成27年11月14日（土）に高次脳機能障害患者と家族の会つばさとの共催で「子どもの高次脳機能障害」をテーマとした研修会を開催し、当事者やご家族、支援者を含め91名の参加がありました。広島県教育委員会で活躍されている臨床発達心理士の馬屋原誠司先生からは、子どもの高次脳機能障害の支援における医療と学校と家庭の協働したリハビリテーションについて講演があり、当事者・家族の会で活動されている中村千穂氏、大野美絵氏からは自身の体験談、当事者・家族会活動の紹介がありました。参加者からは「多機関で連携して支援していくことが重要だと感じた」「家族の思いに感銘を受けた」等の声が寄せられました。また、研修会の開催に併せて子どもの高次脳機能障害の普及啓発のためのチラシを作成しました。



研修会の様子（平成27年11月14日）

◆家族教室◆

今年度は7月と2月に家族教室を開催し、計54名の参加がありました。高次脳機能障害の理解と対応方法に関する講義をはじめ、ソーシャルワーカーを講師に迎えて「使える社会資源」の説明や、患者と家族の会つばさより活動紹介を行いました。教室終了後には参加者同士で情報交換が行われ、家族交流の良い機会となりました。

◆生活支援教室◆

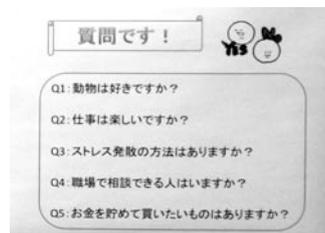
毎週水曜日の午前10時から午後3時に、当センター敷地内の「ほっとあんしんの家」で生活支援教室を開催しています。参加者は当事者同士の交流や活動を通じて、地域での安定した生活への移行を図ることを目的に継続的に参加しています。今年度は、外出訓練としてバス旅行や映画館への外出、作業活動としてビーズ手芸やコースター、アルバム等の創作活動を行いました。



参加者が創作した作品

◆就労者のつどい◆

当センターに寄せられる相談の中に「同じ境遇の人と交流したい」という要望があり、就労されている方の集いを平成27年12月12日（土）に初めて開催しました。和やかな雰囲気始まり、レクリエーションで参加者同士の交流を深めた後に、仕事に関する質問に○×で答える形で座談会を行いました。参加者から仕事をする上で感じていることや悩んでいることなどが語られ、参加者同士でアドバイスし合う姿も見られました。「楽しかった」「自分に為になる話が聞けた」「今後もこのような集いに参加したい」等の感想が多く聞かれました。



○×で答えよう

NPO法人 高次脳機能障害患者と家族の会つばさ より

毎月第3日曜日に石川県リハビリテーションセンター敷地内の「ほっとあんしんの家」で定例会を開催し、当事者・家族が体験を語りながら様々な情報を提供しています。平成27年度は研修会やキャンプ、クリスマス会などのイベントを行いました。この障害で悩んでいる方は、ぜひ一度ご参加ください。

同じ悩みを持つ仲間がいます！お待ちしております！



問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>

高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは
県民ニーズに応えるため、
より質の高いサービスの提供を
目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1